

人間と人間の絆、人間と自然との絆を再創造することが使命

東京大学名誉教授 神野 直彦

100周年の長き歴史を築かれ、荒木会長をはじめとする、ご関係の皆様方に心よりお祝いの言葉を述べさせていただきます。全国町村会は、地域社会の温かい絆、温もりを背後にしながら、中央と地方との縦の関係ではなく、町村間という横の関係で、温かい手と手をつなぎあって、日本の地方自治と日本の民主主義を引っ張ってきたと思います。現在、人類の歴史で問題になっている、人間と人間の絆、それから人間と自然との絆、これらが壊されてきているのではないか、これらをもう一度再創造、作り直さなければならないのではないかということが、重要な課題になっているのではないかと思います。そういう意味ではそうした2つの絆を、守り育ててこられた全国町村会はむしろ、これからこの大きな課題を背負って使命を果たさなければならないのではないかと考えています。

皆様もご存知の通り人間のあらゆる災いが詰まった箱、「パンドラの箱」を開けた時に、このような災いが飛び散りました。しかし、慌ててパンドラがその箱を閉じた時にひとつ小さなものが残っていたのです。このことを忘れてはいけません。その小さいものは「希望」です。全国町村会の任務は、この小さな希望を大きくしていくこと、そして人類が抱えている大きな課題に取り組むことで、その使命は益々重く大きくなっています。

船は荷物が重ければ重いほど安定的に航海できるというように言われていますので、必ずや全国町村会の皆様方が、自らに課せられた使命を果たされるということを信じて、私の御礼とお祝いの言葉にさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。